

マラリア

マラリアは、ハマダラカという種類の蚊に刺されることによってマラリア原虫が体内に侵入してかかる病気です。マラリアには、熱帯熱、三日熱、卵形、四日熱の4種類があります。その中でも、最も危険なのが熱帯熱マラリアです。

（症状）

マラリアの潜伏期は通常2、3週間から2、3か月です。発症すると、インフルエンザのように、悪寒、震えを伴った高熱が出ます。熱帯熱マラリアの場合は、ほかのマラリアと異なり高熱が持続する傾向があり、脳症、肺水腫、急性腎不全、出血傾向、低血糖、重度貧血、肝障害などの合併症が起きる場合が多くあります。

※初期の症状は、頭痛、下痢（軟便）、肩こりなど風邪と紛らわしいこともあります。

（治療）

マラリアは薬で治すことができる病気です。早期診断、早期治療が大事です。抗マラリア薬を服用します。感染した地域によって、マラリア原虫の薬剤耐性が異なるので、その地域性を考慮した薬剤が選択されます。

※（スタンバイ治療）

マラリア感染が疑われた場合、できるだけ早く医療機関を受診することを前提に、重症化を防ぐ目的で薬剤を服用する緊急避難的な自己服薬のことです。医療機関まで遠い僻地で、高熱が出てマラリアの可能性がある場合、原因はマラリアと割り切ってマラリアの治療薬を飲み、病院を受診するまで時間を稼ごうという考え方です。

（予防）

マラリア予防は、蚊に刺されないようにすることが一番大切です。

マラリアを媒介するハマダラカは夕方～夜間に吸血する習性があります。日没後は外出せずに、室内に留まれば感染の危険性は大幅に減少します。外出しなければならぬ時には、長袖、長ズボン、靴下の支度がよいでしょう。虫よけスプレーやローションも併用しましょう。室内では、蚊取り線香や蚊取りマットを使い、殺虫剤も適宜散布する必要があります。また蚊帳を使うほうが安全です。特に乳幼児には効果があるとされています。

※（予防内服）

予防内服というのは、万が一マラリア蚊に刺されても発症しないように、抗マラリア薬を服用しておく方法です。